

建国記念の日～建国をしのび、国を愛する心を養う～

2月11日は「国民の祝日に関する法律」で「建国記念の日」と定められている。

神武天皇の即位日である紀元節に由来しているが、紀元節が廃止された後1966年にふたたび「建国記念の日」として制定された。「建国記念の日」は「建国記念日」と同じように感じるが「建国された日」ではなく、「日本の建国をお祝いする日」である。

日本は古来「みずほの国」として稲作を中心とした国造りが行われ、江戸時代では「年貢米」として当時の経済を担い、「お米」を大事に扱って今日の日本がある。「建国記念の日」には日本建国からずっと寄り添っていた「お米」に対しても愛する心を養ってほしいとともに、日本は水稻の栽培に適した気候条件を有し、できた「お米」が古来より日本人の空腹を満たしてきた大事な「主食」であることを改めて思い起こしたい。

桃の節句には「菱餅」、端午の節句には「粽」、お祝いごとには「お赤飯」など日本の様々な行事にはお米やお餅がつきものである。出雲大社では「建国記念の日」に参拝者に「お餅」を振る舞う行事があり、多くの参拝客が訪れているようだ。古来より日本人が「お米」「お餅」を大切にしてきた証である。

その「お餅」について調べてみた。2022年「お餅」の購入量は約770g/人、角餅約48gとすると16個/年購入し食していることになる。（自宅ですいたお餅はノーカウント）

「餅」の1世帯当りの年間購入数量及び平均価格の推移

	2008年	2013年	2018年	2022年
世帯購入数量（g）	2,711	2,437	2,250	2,242
世帯人員（人）	3.13	3.05	2.98	2.91
1人当りの購入数量（g）	866	799	755	770
平均購入価格（円/kg）	783.5	747.6	755.1	759.6

総務省家計調査（2人以上の世帯）

「お餅」の形も関ヶ原辺りを境に東日本は角餅、西日本は丸餅が主に食されている。角餅は主に焼いて食することが多く、丸餅は焼いて食することもあるが、煮て食することもあるようだ。

今では個包装された「お餅」を購入し食することが日常になっている。1965年新潟県の食品メーカーが製造した半真空状態の板餅が「包装餅」の始まりであるようだ。その後様々な機械の進歩や脱酸素剤の登場により1983年日本で初めて「個包装の切り餅」が販売され、大ヒットとなった。今では「個包装のお餅」に切れ目が入り「ふっくらしたつきたての美味しさ」を味わえるように工夫され、一年中「つきたてのお餅」を味わえるようになったことが「お餅」の安定した消費を支えているのではないかと。

「お餅」は糖質が豊富で植物繊維も含まれ腹持ちが良く、また消化吸収も良い「パワーフード」。更に低脂肪・低カロリーであり「グルテンフリー」食など良いこと尽くめの食品だ。「お餅」の良さを改めて見直し、地方地方で色々とアレンジされた「お餅」で季節を味わうこともお試しあれ。

ただ食べ過ぎには要注意！！



～西部・中部菱肥会開催！～

去る、令和6年1月24日（水）、ホテルグランヴィア大阪にて西部菱肥会・新年賀詞交歓会を開催致しました（出席者24名）。当日は乾杯や中締めを自粛し、会を執り行いました。開催にあたり西部菱肥会運営委員長 山本コーポレーション(株)山本社長（広島県）より2024年4月以降の物流問題等、変化していく情勢、環境に対して、今こそ食べる事は生きる事、食を支えている肥料商としての誇りをもって一緒に知恵を絞ってこの難局を乗り越えようとお挨拶頂きました。

また同会会長、三菱商事(株)関西支社 石油化学・基礎化学事業部 浜口部長から、収束の気配がないロシア、ウクライナ戦争、昨年11月以降のイスラエル、ハマス問題、更に本年はアメリカをはじめ世界各国で選挙が行われる事等、世界規模でも変化、変革の年となる。このような状況下だからこそ『アジャイル』（方針の変更やニーズの変化などに機敏に対応する能力）が大切であるとお言葉を頂きました。大変な局面だからこそ、皆で一致団結し、考え行動する事で道を切り開いていかなければならないと、気持ちを新たにしました。

1月30日（火）には名古屋(JRゲートタワーカンファレンス)にて中部菱肥会 理事運営委員会を開催致しました（17名出席）。会に先立ち、能登半島地震で犠牲になられた方々へ出席者全員で黙とう。一日も早い被災地の復興を祈念致しました。

当日開催された講演では、秋田県立大学アグリイノベーション教育研究センター長代理 西村教授をお招きし『秋田県におけるスマート農業拠点整備と5Gを活用したリモート農業システム開発』について、スマート農業の現状や今後の展望、教授が開発を手掛けられている5Gを用いたリモート操作による草刈機の解説。更には実際に会場と秋田県をつないだデモンストレーションを実施して頂きました。課題として5G環境下にて0.2～0.3秒程度の画像伝達遅延が発生するとの事でしたが、まるでゲームさながらで技術革新を実感する事が出来ました。

当初、開発を始めるにあたり他先進国と比較しても顕著な農業人口の高齢化や減少を鑑み、従来の農業は農家がという発想から脱却し、農家ではなく都会にいる若者をはじめ、農家以外の人たちがゲーム感覚で草刈りが出来れば前述課題も軽減できるのでは、との思いで日々研究に取り組まれているとの事でした。

当社菅生社長より、肥料原料情勢について、昨今の中東情勢による肥料原料への影響を交え、プレゼンを行いました。会の終盤では、当社田口部長より菱肥会ブロック交流研修会（本年北海道）、菱肥会海外ミッション（本年インド）について説明を行ないました。最後に、この度の能登半島地震に対し理事運営委員会の全会一致で、中部菱肥会より石川県の日栄商事（株）様へ震災お見舞をお贈りする事と致しました。

上述致しました通り、地政学的リスクにより、我々肥料業界を取り巻く環境も大きく変化しています。変化の大きな時代、皆様への的確な情報提供・ご提案に努めて参ります。（大阪支店）



花粉が本格的に飛散し始めるようですね。花粉症の皆さま対策万全で乗り切りましょう。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>